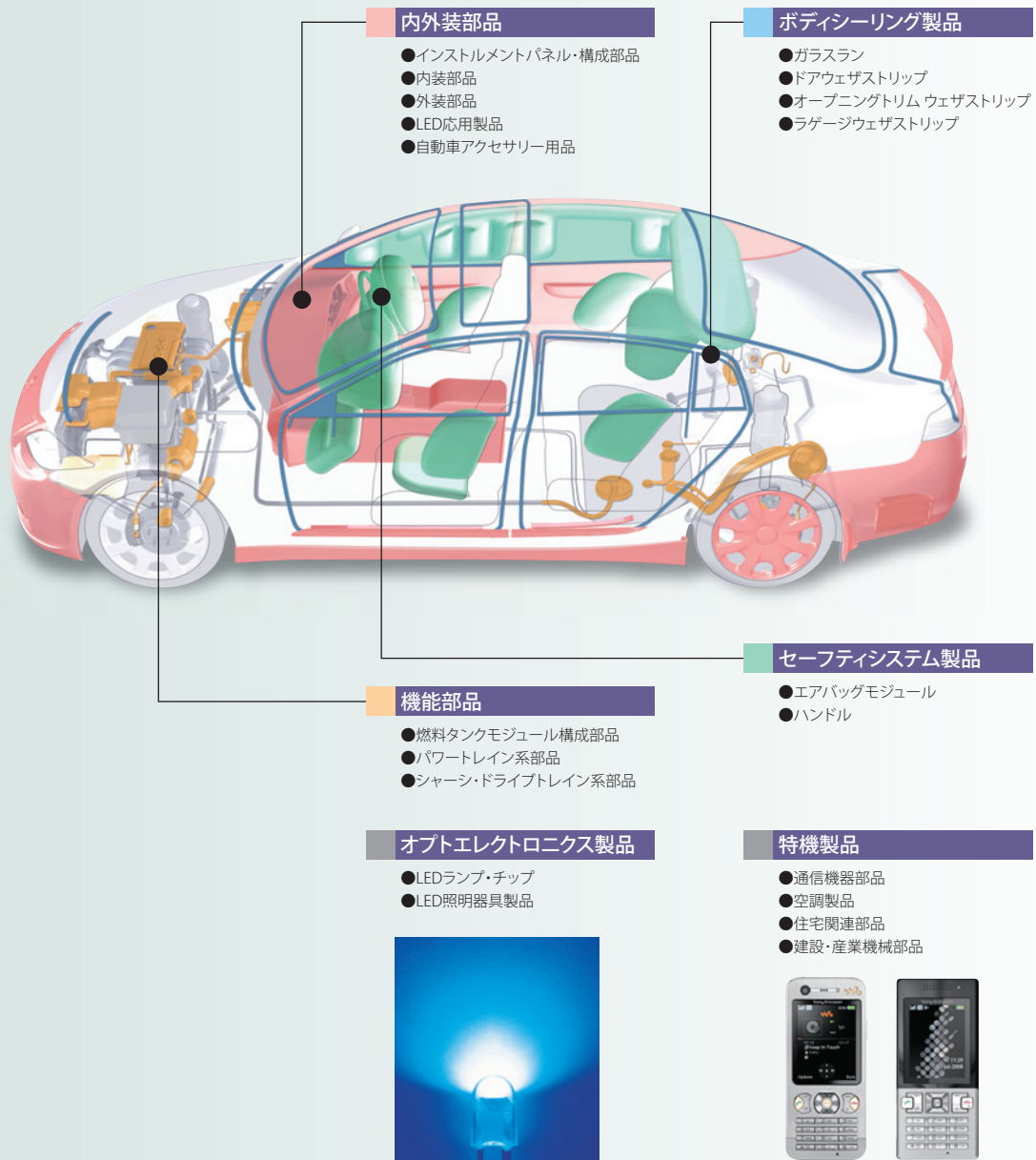
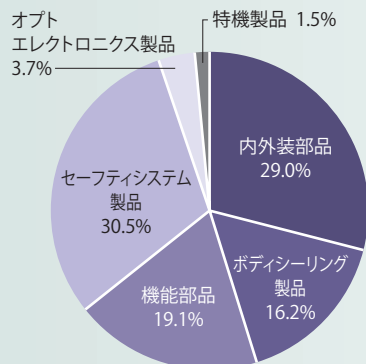


「高付加価値商品の開発と提供」「基本にこだわるモノづくりの徹底と進化」「世界最適供給体制の整備と充実」を事業活動の柱として、魅力ある商品づくりに取り組んでいます。そして、高い技術力により更なる市場開拓に努めていきます。



■ 事業別売上高



	2008年度		2007年度		増減率 (%)
	金額 (億円)	構成比 (%)	金額 (億円)	構成比 (%)	
内外装部品	1,583	29.0	1,920	29.0	△ 17.5
ボディシーリング製品	887	16.2	1,159	17.5	△ 23.5
機能部品	1,044	19.1	1,269	19.2	△ 17.7
セーフティシステム製品	1,665	30.5	1,962	29.6	△ 15.1
自動車部品事業計	5,179	94.8	6,310	95.3	△ 17.9
オプトエレクトロニクス製品	204	3.7	219	3.3	△ 6.8
特機製品	80	1.5	95	1.4	△ 15.9
非自動車部品事業計	284	5.2	314	4.7	△ 9.6
合計	5,463	100.0	6,624	100.0	△ 17.5

内外装部品事業部

2008年度のハイライト

LED商品化を専門とする第3製造部を新設

自動車の大幅な減産を変革のチャンスと捉え、モノづくりの原点に立ち戻って工程内を徹底的に検証し、ムダやロスを排除することで生産能力を高めました。厳しい情勢だからこそ、将来性が見込めるものについては、開発体制を強化して、製品づくりに力を注いでいます。特に環境に関わる薄肉化、軽量化、リサイクルについては、今まで以上に積極的な開発を展開中。また脱石油時代に向けて、食料需給に影響を及ぼさない代替材の開発など、内外装というワケにこだわらない、未知の可能性を秘めたモノづくりにも挑戦していきます。

LEDの商品化を専門とする第3製造部を事業部内に設け、車載用LED製品、住宅用LED照明といった環境面とデザイン面を両立した製品開発にも取り組んでいます。



コックピットモジュール

これまでに培ってきた技術やノウハウを応用してモジュール化を推進
室内の統一感や品質の向上とともに、大幅なコスト削減も実現しています



ラジエータグリル

ミリ波で前方の障害を感知して、乗員に危険を知らせるミリ波レーダーに対応したラジエータグリルを開発



コンソールボックス(左右両開き式)

運転席・助手席、どちらからもスムーズに開け閉めできる独自構造のコンソールボックスを開発

2008年度(連結)

売上高：1,583億円

売上構成比：29.0%

ボディシーリング事業部

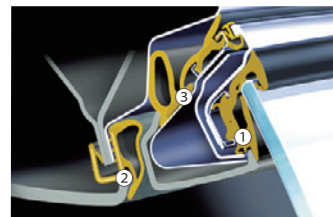
2008年度のハイライト

世界初の軽量オープニングトリムを開発、量産

北米4番目、メキシコの新生産拠点で生産を開始

燃費改善やコスト低減につながる軽量化に積極的に取り組んできた結果、ニーズを先取りした製品開発が実を結び、2008年度は世界初、軽量オープニングトリムを量産開始。また技術的に難しいとされるソリッドゴムのリサイクルを量産確立し、2009年度はリサイクル率の倍増をめざしています。一方、押出成形の改善をさらに推し進めるため、モノづくりの実態解析を多角的に行い「見える化」を徹底、歩留りの向上を進めています。

2008年10月には北米4番目の生産拠点となるボディシーリングの新会社TGASMX(メキシコ・サンルイスポシ州)が量産開始。海外14拠点によるグローバル体制が確立しました。今後は各拠点における生産体制を再編するなど、より強い企業体質づくりを行っていきます。



- ① ガラスラン
- ② オープニングトリムウェザーストリップ
- ③ ドアウェザーストリップ



ドアの機能やデザインに対する多様なニーズに応え、常に最適のドアシール構造を提案



コンパクトカー向け軽量オープニングトリム
ゴム材料や金属インサートを工夫し、これまでにない軽量化を実現

2008年度(連結)

売上高：887億円

売上構成比：16.2%

機能部品事業部

2008年度のハイライト

- 国内初の樹脂フューエルインレットパイプを開発、量産
- 各工場における生産品目を統合・整理し効率化を推進

燃料系部品の製品開発に積極的に取り組んできた結果、金属製が一般的とされるフューエルインレットパイプの樹脂化に国内で初めて成功し、量産を開始しました。大幅な軽量化と、環境負荷が低いという強みを活かし、2009年度は同製品の受注拡大に力を入れると共に、ハイブリッドシステムや電気自動車、燃料電池自動車といった代替エネルギー自動車に向けた材料・製品開発についても引き続き進めていく方針です。

世界同時不況による厳しい経済情勢が続くなか、既存製品のモデルチェンジは改善のチャンスと捉え、国内外の生産拠点における取り組みを徹底的に見直し、必要に応じて生産品目を統合または整理することで、より効率的でスピーディな生産供給体制の確立をめざします。



2008年度(連結)

売上高：1,044億円
売上構成比：19.1%

セーフティシステム事業部

2008年度のハイライト

- 世界初の後突エアバッグを開発、量産
- 世界初の後席センターエアバッグを開発、量産
- インド3番目の新拠点で生産開始

どの角度からの衝突にも対応できる「360°フルカバーエアバッグ」実現に向け、世界初の後突エアバッグを開発、量産。さらに後席センターエアバッグの量産も開始しました。1台の車に搭載されるエアバッグは、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグなどを含め、最大で10個以上となりました。また実車衝突に近い評価ができる衝突模擬試験機も導入し、衝突安全開発技術を進化。さらに設計革新による低コスト化やグローバル対応にも力を入れています。今後は衝突安全に加え、衝突を回避する予防安全、プリクラッシュシステムとの融合技術開発も積極的に展開していきます。

2008年4月にはインド3番目の新拠点となるセーフティシステム事業の新会社TGIN(インド北部・ラジャスタン州)を設立、すでに生産が始まっています。



2008年度(連結)

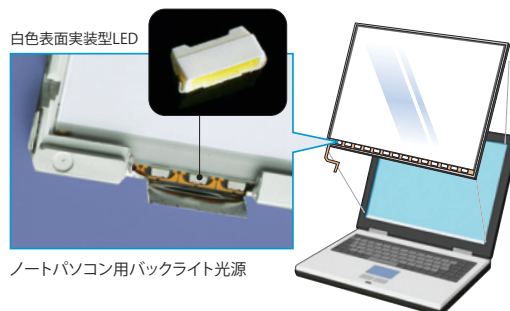
売上高：1,665億円
売上構成比：30.5%

オプトエレクトロニクス事業部

2008年度のハイライト

- LEDチップで過去最高の生産・販売を記録
- ノートパソコン用パッケージの売上げが倍増

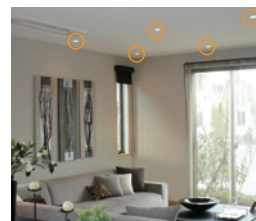
業界トップクラスのLEDチップの市場投入により、2008年10月までは過去最高の生産及び販売を記録。その後、世界同時不況による顧客の生産調整に伴い、生産縮小を余儀なくされましたが、2009年度に入って回復基調にあります。また同事業部が2007年度から主力市場と位置づけるノートパソコン市場に関しては、パッケージの長寿命・高輝度が顧客に認められ、売上げはほぼ倍増しました。ノートパソコンにおけるバックライトのLED化は、2008年度の約6%から、2009年度は約40%に増加すると見込まれており、この追い風に乗ってカスタマーイン活動にも力を入れるなど、さらなる事業拡大を図ることでノートパソコン用パッケージは前年比2倍以上の売上げをめざします。さらに内外装部品事業部と共同で、住宅等のLED照明の開発にも力を入れていきます。



白色表面実装型LED
ノートパソコン用バックライト光源



メーター用バックライト光源



LED一般照明のイメージ写真
○=LED照明
住宅用LED一般照明の製品開発を進めています

2008年度(連結)

売上高：204億円
売上構成比：3.7%

特機事業部

2008年度のハイライト

- 中国で携帯電話筐体の受注拡大

主力製品である携帯電話筐体は、中国において生産供給力・技術力が評価され、昨年、新規顧客を獲得しました。これによって中国での生産量は順調に伸び、2009年度は前年比2倍以上の売上げを予測。国内の携帯電話市場は、ほぼ横バイ状態が続いており、当面は中国市場に力を入れる方針です。生産拠点である天津の子会社は、生産能力に十分なポテンシャルがあり、さらなる増産への対応が可能となっています。

このほか空気清浄機は、家電メーカーの低迷により増産は見込めず、2009年度は前年並みに。事業体質のスリム化を図るため、集中と選択を実施し、自動車技術を活かした住宅用部材、建設機械にも一層力を入れていく考えです。



携帯電話筐体
これまで培ってきた精密成型技術や表面処理技術を応用して製品化



空気清浄機
開発・設計から生産に至るまで
当社が担当し、空調機器メーカーに製品を供給しています

2008年度(連結)

売上高：80億円
売上構成比：1.5%